



太田修嗣 展 漆器の木霊 7月7日(土)~15日(月) 会期中無休

GALLERY
うつわノート

料金後納
ゆうメール

太田修嗣展 漆器の木霊
二〇一八年七月七日(土)～十五日(月) 会期中無休
営業時間 十一時～十八時 作家在廊日 七月七日(土)・八日(日)

愛媛県砥部町の漆器作家・太田修嗣さんは1949年生れ。漆器産地のような分業制ではなく、木地づくりから上塗りまで一貫して一人で作っています。陶芸家が原土にこだわるのと同じように、木への強い思いをもつ太田さん。一木より削り出し、はつた痕。粗めの鑿(のみ)跡を残す椀や盆は、漆に覆われていながらも、いまだ木の息吹を感じます。昔の民衆の木の器は、きっと簡素で粗野な姿をしていたことでしょう。暮らしの根から生れた飾らぬ佇まいに心打たれるのです。同様に太田さんの漆器は、澄ました姿よりも、野趣に富む力強さが魅力的なのです。

太田さんは縄文時代の造形に関心があるそうです。祈りと一体化した器。古代では、食糧を確保すること自体がとても大変な事で、毎日空腹の状態だったそうです。それゆえに、食べるための道具は、現代人には想像も出来ないほど、敬虔な存在だったのだと思います。生命の根源と繋がる食の器。太田さんの意識の奥にある縄文の心が、器にも表れているように思うのです。

木霊は樹木に宿る精霊。それが宿った樹木を木霊と呼びます。木霊の聞こえる漆器。かねてから、そんな太田さんの器の在り方に注目してきました。今展では、特に木の力強さを主にした漆器をテーマに取り組んで頂きます。夏の盛りの開催となりますが、ご高覧頂ければ幸いです。 店主

太田修嗣(おおたしゅうじ)プロフィール

- 1949年 愛媛県松山市生まれ
- 1981年 鎌倉・呂修庵にて塗師の仕事始める
- 1983年 村井養作氏に師事 蒔絵および塗り塗りを学ぶ
- 1987年 神奈川県厚木市にて独立
ろくろ・指物・刳物 一貫制作による木漆工房を開く
- 1994年 愛媛県広田村(現・砥部町)に移転
- 2018年 現在 同地にて制作

ギャラリー うつわノート

埼玉県川越市小仙波町1-7-6
TEL 049-298-8715
MAIL utsuwanote@gmail.com



電車：川越駅(東武東上線・JR)より徒歩25分
本川越駅(西武新宿線)より徒歩20分
バス：駅東口3番乗場 [小江戸名所めぐり]～[喜多院前]
駅西口2番乗場 [小江戸巡回バス]～[喜多院]
車：ギャラリー専用の新駐車場は北側(5～8番)

